

令和元年度

事業報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

公益財団法人 浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告 多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業・多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
②入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：多文化共生センター事業）	
④中国残留邦人支援事業（市委託事業）	
⑤法律相談（自主事業・市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑥行政書士相談（自主事業・市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑦税務相談（自主事業）	
⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）	
⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業・多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業、自主事業）	
2. 日本語学習支援事業	9
①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②日本語学習等支援者養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）	
④浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（文化庁事業）	
⑤外国人学校への日本語教師派遣（市委託：外国人学習支援センター事業）	
3. 外国につながる次世代支援事業	16
①外国人の子どもへの不就学ゼロ作戦（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②定住外国人の子どもへの就学促進（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③外国につながる青少年のキャリア支援（市委託：外国人学習支援センター事業）	
④当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援（自主事業：自治体国際化協会助成）	
4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	24
①各地域への個別支援	
②地域共生自治会会議	
③ブリッジビルダー育成	
5. 多文化防災事業	24
①災害時多言語ボランティア養成研修（市委託：多文化共生センター事業）	
②災害時多言語支援センター設置訓練（市委託：多文化共生センター事業）	
③災害・防災情報の提供（市委託：多文化共生センター事業）	
④多言語防災マップ（自主事業）	
6. 多様性を生かしたまちづくり事業	25
①はままつ多文化共生MONTH(月間)事業（市委託：多文化共生センター事業）	
②文化・スポーツ紹介（市委託：多文化共生センター事業）	

- ③地域活性化事業（市委託：多文化共生センター事業）
- ④アートで多文化共生を考える（自主事業）
- ⑤フェスタ・サンバの運営（実行委員会形式）

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用	28
①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：多文化共生センター事業）	
②グローバル人材セミナー（市委託：多文化共生センター事業、自主事業）	
③国際理解教育講座（自主事業）	
④第10回はままつグローバルフェア（自主事業）	
⑤多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2. 国際交流・理解事業	
1) 外国語講座	33
①国際交流のための外国語講座（自主事業）	
②国際交流のための外国語サロン（自主事業）	
③外国人支援者のためのポルトガル語講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2) 交流イベント(自主事業)	35
①親子で English & キッズ English	⑤第9回ポルトガル語スピーチコンテスト
②留学生とおしゃべり	⑥ダビッドさんと英語で親子クッキング！
③英語で体験！インドの伝統アート	⑦サルセーション
④ベトナムのお月見祭り	
3. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）	37
①HICE ボランティアバンクの運営	
②ホームステイ・コーディネート	
4. 担い手の支援：国際交流活動支援事業	37
①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（浜松市補助金）	
②天竜地域事業（市委託：外国人学習支援センター・自主事業）	
③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）	
④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）	
5. 情報提供事業	40
①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）	
②ホームページの運営（自主事業）	
③Facebook の運用（自主事業）	
④HICE info メールによる情報配信（自主事業）	
⑤CIR NEWS の配信（自主事業）	
⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）	

事業実施の背景と取り組み

2019年度は、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」が本格的に始まった年であるとともに、新しい在留資格「特定技能」が4月より施行された。2019年末の「特定技能」外国人の受入れは全国で1,621人であり、その影響がまだ地域には及んでいない一方で、技能実習生は増加し、2019年末で前年比25%増の41万人と在留資格別では永住者に次ぐ人数となっている。

浜松市においては未だ、「永住者」「定住者」「日本人の配偶者等」など地域に長く定住する外国人市民が多数を占めているが、技能実習生等の占める割合は年々増加してきており、永住者・定住者等に特化した外国人市民施策・事業を再構築すべき時期に来ている。国籍についても、いまだ4割はブラジル国籍者が占めるが、第2位のフィリピン、第3位のベトナムなどの割合が年々増加しており、その存在感が増している。

総合的対応策の一環として、法務省の交付金により全国で多文化共生の相談窓口が設置され、浜松市でも昨年7月より「浜松市多文化共生総合相談ワンストップセンター」が開設された。これは従来の多文化共生センターの相談窓口を拡充する形で、ベトナム語・インドネシア語相談の新設、その他13言語に対応するテレビ電話通訳の導入、弁護士・行政書士相談の追加などを内容とするものである。ベトナム語・インドネシア語の相談についてはまだ周知が不十分であり、相談対応力を上げていくとともに広報に力を入れていく必要がある。

日本語教育関連では、2019年6月に公布施行された「日本語教育の推進に関する法律」に基づき、文化庁が中心となって「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を推進し、浜松市では当協会が受託により4つの調査を実施した。この調査結果により、日本への定住志向がより強い身分系の資格を持つ外国人市民の日本語力の課題が明らかになるとともに、学習意欲がある外国人であっても実際には仕事をしているために時間や場所の制約があり学習が困難である実態等も明らかになった。また、外国人の日本語学習意欲に比して、企業側は日本語学習を積極的に推奨していないこと等も明らかになった。これらの調査結果を踏まえ、浜松市は地域における日本語教育の整備指針となる「地域日本語教育方針」を策定した。

中国武漢に端を発する新型コロナウイルスの影響は、2020年2月以降、HICEの諸事業にも及び、当協会でも最大のイベントであるグローバルフェアは、開催こそできたものの来場者数は大幅に減少し、その後に続く事業の多くは中止を余儀なくされた。事態鎮静化の見通しが立たない中、今後、インターネット回線を使った遠隔授業・講座、相談などの工夫が求められる。また、ウイルス感染拡大防止策に関する情報や経済活動縮小により収入が大幅に減ったり失業したりした人への支援策に関する情報などを多言語にて迅速かつ的確に提供することが求められているが、ホームページやFacebookでの効果的な多言語情報発信について様々な課題が明らかとなり、今後、具体的に組み込んでいく必要がある。

国、県、市をはじめ、各方面から多文化共生施策の推進が求められる中、組織としては、自主財源の獲得も含め、それらの負託に十分応えていけるだけの人材を確保し続けることが引き続き大きな課題である。これら諸般の課題を踏まえながら、今後の当協会の在り方について2020年度からの3年間の中期計画に反映していくことが重要である。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

【重点】相談事業 p. 5

多言語生活相談、出張相談、ワンストップ相談(入国管理)、法律相談・行政書士相談・税務相談、メンタルヘルス相談、中国残留邦人支援、ソーシャルワーク研修

【重点】日本語学習支援事業 p. 9

日本語教室、支援者養成講座、教職員多文化共生講座、地域日本語学習支援

【重点】外国につながる次世代支援事業 p. 16

外国人の子どもへの不就業ゼロ作戦、定住外国人就学支援教室、キャリア支援
就学前の子どもと保護者の子育て支援(クレア助成金)

地域共生事業 p. 24

地域共生活動支援、地域共生自治会会議、ブリッジビルダー育成

多文化防災事業 p. 24

災害時多言語支援センター設置訓練、災害時支援ネットワーク構築

【重点】多言語防災マップ作成(特定費用準備金)

多様性を生かしたまちづくり事業 p. 25

多文化共生 MONTH、文化・スポーツ紹介、地域活性化事業

【重点】アートで多文化共生を考える

【重点】フェスタ・サンパの運営(実行委員会事務局)

グローバル感覚に優れたひとづくり

【重点】グローバル人材の育成と活用 p. 28

グローバル人材セミナー、地球人教育出前講座、国際理解教育講座、
ホストタウン・ボランティア

国際交流と国際理解の推進 p. 33

国際交流・国際理解イベント、外国語講座、フェアトレード啓発

【10周年】第10回グローバルフェア(特定費用準備金)

地域創造の担い手の育成と支援 p. 37

ボランティアバンクの活用、補助金交付事業

情報収集・提供 p. 40

HICE NEWS、ホームページ、フェイスブック、メール配信、情報コーナー

多文化共生社会の推進

多文化共生センター

外国人学習支援センター

事業報告

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

- ① 外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）（4,151件）
7月より市多文化共生総合相談ワンストップセンターに移行

■言語別件数内訳

言語	曜日	時間	相談件数	昨年度
ポルトガル語	火曜日～日曜日	9:00～17:00	2,285	2,174
スペイン語	日曜日	13:00～17:00	98	184
タガログ語	木曜日	13:00～17:00	224	226
中国語	金曜日	13:00～17:00	72	58
ベトナム語	土曜日	13:00～17:00	30	—
インドネシア語（7月～）	日曜日	13:00～17:00	8	—
英語	月曜日～金曜日	13:30～16:30	146	86
日本語	月曜日～日曜日	9:00～17:30	1,284	1,101
その他			4	0
合計			4,151	3,829

*その他はタイ語

■内容別件数内訳

内容	面談	電話	メールその他	合計
ビザ・在留関係	62	181	7	250
雇用・労働	111	95	15	221
社会保険	11	20	3	34
医療	12	77	4	93
年金・税金	33	91	11	135
出産・子育て	16	39	9	64
子どもの教育	85	81	13	179
防災・災害	47	30	64	141
住宅	18	14	2	34
結婚離婚・DV	47	49	0	96
日本語教育	107	81	8	196
その他*	768	1,611	329	2,708
合計	1,317	2,369	465	4,151

*その他は、交通事故、金融、人間関係等が含まれる

■相談内容と傾向

英語を話す外国人からの相談が目立った。また、日本語での相談も増えている。昨年に引き続き、企業や自治会など受け入れ社会側からの相談が寄せられている。

外国人からの相談はビザや労働関係、金銭的な相談、年金などについての内容が多い。

- ② 入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）（186件）

入国管理局との連携で専門相談の窓口を開設。

毎週水曜日 9:00～12:00、13:00～17:30 相談件数：延べ186件

- ③ 出張相談

- ・4月7日（日）ペルー人コミュニティ（Shizulatinos）の開催する防災イベント「地震や津波のときに、どう行動するか？」において、災害時多言語支援センターの紹介。（参加者：20人）
- ・5月11日（土）フィリピン・ナガイサ「BAYANIHAN 人材育成講座」にて、フィリピン人生徒の保

- 護者等を対象に、生活情報について説明（参加者：12人）
- ・5月13日(月)ブラジル人学校 EAS の教員向けに、浜松市や HICE の外国人向けサービスの説明および災害時多言語支援センターの紹介（参加者：20人）
 - ・5月19日(日)ブラジル人学校 EAS の保護者向けに、浜松市や HICE の外国人向けサービスの説明および災害時多言語支援センターの紹介（参加者：50人）
 - ・6月30日(日)ブラジル人コミュニティ（グルッポ・エスペランサ）の開催するフェスタジュニーナにおいて出張相談（相談件数：30件）
 - ・7月21日(日)ペルー人コミュニティ（Asociacion Civil Gestion Ciudadana）の開催する独立記念フェスタ「Peru Fiesta Patrias de Gala 2019」において出張相談（相談件数：29件）
 - ・11月29日(金)、30日(土)ブラジル人託児所レイノ・ダ・アレグリアの保護者向け出張相談。（相談件数：4件）
 - ・3月25日(水)ブラジル人託児所ピメンチーニャへ出張相談。発達障害が疑われる3人の子どもについて心理士が相談にのった。（対象：3件）

④ 中国残留邦人支援事業（市委託事業）（404件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のための相談員を配置するとともに、医療機関に通訳を派遣。

■市内区役所（中・南・東・北）の福祉事務所に中国語による支援相談員1人を配置

日 時 週3日 13:00～17:00（138日）

相談内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

相談件数 延べ216件

対 象 10世帯13人

■医療機関等へ通訳を派遣

件 数 108日、188件

対 象 10世帯36人

⑤ 法律相談（自主事業 ※7月からワンストップセンター事業）（71人）

弁護士による法律相談 相談者数は延べ71人

毎月最終木曜日、9月からは月1回の土曜、日曜を加えて全18回開催

協 力 静岡県弁護士会、関東弁護士連合会（11月の拡大法律相談）

⑥ 行政書士相談（自主事業 ※7月からワンストップセンター事業）（45人）

行政書士による相談 相談者数 延べ45人

毎月第2日曜日、9月からは第3金曜日を追加して全18回開催（2月を除く）

協 力 静岡県行政書士会西遠支部

⑦ 税務相談（自主事業）（52人）

日 時 令和2年2月1日（土）9:30～16:30

内 容 外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、タガログ語）をつけてスムーズに確定申告が行えるよう支援した。

参加者 相談者42人、通訳5人、税理士5人 合計52人

協 力 東海税理士会浜松西支部

⑧ メンタルヘルス相談（市委託事業）（454件187人）

心理士2人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

日 時 週5日 9:00～17:00 週2日（火・金）は13:00～20:30

件 数 延べ454件（カウンセリング410件、相談44件）（前年度487件）

[カウンセリング 410 件の内訳]

相談者実数	187 人
新規	122 回 (30%)
継続	288 回 (70%)
出身国	ブラジル人 393 件 (95.8%)、ペルー人 16 件 (4%)、その他 1 回 (0.2%)
年齢	大人 268 件 (65%) 子ども 142 件 (35%)
時間帯	昼間 333 件 夜間 77 件

課題 両親が学校へ通う機会、教育を受けるチャンスがなかった家庭の場合、子どもは両親の生活をモデルとしてその価値観等に沿って生きるため、勉強するモチベーションや、学習に対する意欲がもてない。思春期の子どもたちは、両親とのコミュニケーションや人生に対しての指導に不満を持つことにより、異性と関わり、中にはまだ夫婦としての生活基盤がないまま同居する子もいる。

年配の方は身体的、精神的に限界を感じ始め、同じペースで働き続けることが困難となっている。また、福祉制度を活用することが難しい上に、家族が遠くに住んでいて支援を十分受けることが難しいことがある。相談者によってはコロナウィルスのため不安を抱え、衛生面に関して敏感になりすぎ、強迫行為を行い、社会的距離のため孤独を感じている。また、仕事が減り、収入が減ることで経済的心配も大きい。

病気で死を目前とした方は、残った最後の時間をどのように過ごし、人生、人々及び自身自身の存在との別れを内面的に整えるサポートが必要である。

■通訳派遣

通訳件数 延べ 317 件 (依頼数 366 件、うちキャンセル 49 件) (前年度 334 件)

内容 前年に比べて同行通訳依頼数及び新規の件数はあまり変わらなかった。性別については比較的男性が多かった。例年の傾向と同様に子どもの割合が多く今年度は 7 割近くが子どもだった。発達に困難を抱えるケースが多い。入院のケースは子ども 1 件、大人 1 件だった。子どもの場合、学校の転校手続きも含めて行ったため、生徒の状況把握、提出する書類の説明や記入等でかなり時間がかかった。

依頼元の医療機関数は前年度の 9 カ所に対し、今年度は 12 カ所に増えた。一つの医療機関からの依頼が全体の半数を上回る状況が生じた。児童相談所や教育委員会も関わっているケースもあり、各機関と連携を取りながら進めた。

課題 受診に来る患者の保護者が生活面、メンタル面で困っているケースもあり、その場合受診が保護者の問題に集中してしまう傾向も見られた。実際に社会福祉協議会につないだケースもある。精神科医にカウンセリング的対応を求める傾向も見られた。

言葉だけの問題ではなく患者及び保護者の理解力の問題、医療機関の方が (ドクターを含め) 外国人患者に慣れていない場合、通訳の時間が長引く (例: 母語でも言葉の意味を説明しないといけない、ドクターの抽象的な会話についていけないので質問が増える等)。療育手帳、特別児童扶養手当、自立支援等の制度が分からない時もあり、手帳の色や発行先を伝えて理解してもらおう必要もある。

■発達に困難を抱える外国人の子どもと保護者の支援者向け研修会

■メンタルヘルスに関する啓発講習会 (小集団活動)

「恐れ、恐怖症、パニック障害」

日時 11 月 19 日 (火) 15:00~16:30

場所 多文化共生センター

参加者 ブラジル人 思春期の若者 3 人

内容 ディスカッション (アイデアと経験を語り合う)

■ブラジル人託児所児童の保護者に対する養育能力向上のための講習会

日 時 7月14日(日) 15:30~16:30
 場 所 浜松市農村環境改善センター
 講 師 デビデ・ヴァンデル氏(心理分析士)
 参加者 18人
 内 容 子育てについての講演

⑨ソーシャルワーク研修 (市委託：多文化共生センター事業) (82人)

内 容 市や各機関・企業等の通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル人材
 (ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、フィリピン、日本)

日時	テーマ	講師	参加者数
9月14日(土) 14:00~16:00	通訳の技法	吉富志津代(多言語センターFACIL 理事長、名古屋外国語大学教授)	41人
11月26日(火) 13:30~16:30	市役所ポルトガル語通訳者対象研修	大島ヴィルジーニャ(ブラジリアンコミュニティ通訳者サポートの会)	20人
11月30日(土) 14:00~16:30	ポルトガル語通訳者研修	大島ヴィルジーニャ(ブラジリアンコミュニティ通訳者サポートの会)	21人
合計			82人

⑩コミュニティ・エンパワメント (市委託：多文化共生センター事業) (115人)

内 容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

対 象 各外国人コミュニティの一般人

日程	テーマ	講師	参加者数
4月14日(日) 14:00~16:00 会場：多文化共生センター	(ブラジル人対象) 「日本での老後に備える」	半田バネッサ(労働・社会保障の相談員) アハゴン・アデライデ(フシコ・ブラジル代表) バホス・カルラ・アマラウ(心理士)	58人
5月18日(土) 9:00~12:00 会場：在浜松ブラジル総領事館	(ブラジル人対象) 「ファイナンシャル・プランセミナー」	カズオ・シライシ (Yorokonde Business Partner 代表)	21人
9月28日(土) 14:00~16:00 会場：多文化共生センター	(フィリピン人対象) 「防災セミナー」	ホセ・ラウレル(駐日フィリピン大使)	36人
合計			115人

コミュニティ・エンパワメント（自主事業）（32人）

日程	テーマ	講師	参加者数
10月5日（土） 14:00～17:00	起業家のチャレンジ	横山 アンジェリカ （ブラジルの中小零 細企業支援機構）	44人
12月7日（土） 13:30～16:30 会場：多文化共 生センター	（ブラジル人対象） 「心理学における赦すと いうこと」	デビデ・ヴァンデル （心理分析士）	32人
1月11日（土） 9:30～15:30	ポルトガル語でストー リーテリング	カチア・シモキ （ブラジル人託児所 スタッフ）	132人
合計			208人

2. 日本語学習支援事業

①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業 2,995人（前年度5,082人））

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラス、日本語能力試験のN4合格を目指すN4クラス、ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読みもの等を学ぶ読み書きクラスを開催。

協働団体：With U-Net/受講者数 延べ2,995人

○初級クラス

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	初級	81	4月15日～10月1日	789人
第2期	初級	81	10月3日～3月26日	724人

○日本語能力試験対策クラス

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	日本語能力試験 N4	26	5月8日～7月5日	111人
第2期	日本語能力試験 N4	26	9月27日～11月29日	61人

○読み書きクラス

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	読み書き	39	5月7日～9月26日	685人
第2期	読み書き	40	10月8日～3月12日	625人

②日本語学習等支援者養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業 925人）

■日本語学習支援ボランティア養成講座

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：はままつ国際理解教育ネット、With U-Net、NPO 法人おおさかこども多文化センター、NPO アラッセ、そらの会、KSC 子どもサポーターズクラブ、浜松市教育委員会、U-ToC 外国人サポーター

全16回/各期 年2期

	期間	受講者
第1期	6月7日～10月18日	延べ262人
第2期	11月1日～3月24日	延べ221人
合計		483人

プログラム：日本語文法への入口、異文化理解体験ワークショップ、外国語学習体験、浜松市における外国人児童の現状、ボランティア体験、やさしい日本語実践体験（U-ToC 日本語教室の学習者と防災訓練を体験）

■日本語ボランティア実地研修

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。

教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。

見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ 54 人
日本語教室・読み書きクラス	延べ 78 人
合計	延べ 132 人

■日本語学習支援者スキルアップ講座

日本語学習支援者を対象とした日本語教育に関する知識を学ぶ講座。

(全 6 回)

(受講者数 延べ 191 人)

回	日時	内容	講師	受講者
1	4月10日(水) 11:00~12:00	With U-Net 研修&交流会 学習者の声を受け止める	内山夕輝 (浜松国際交流協会)	52 人
2	8月22日(木) 13:30~15:00	翻訳アプリ (smilingual) を使ってコ ミュニケーションを広げよう!	内山夕輝 (浜松国際交流協会)	45 人
3	8月28日(水) 9:30~11:00	専門家から学ぶ日本語テストの作り方 第1部「評価におけるテストについて」	谷誠司 (常葉大学外国語学部 グローバルコミュニ ケーション学科)	26 人
4	8月28日(水) 11:10~12:40	専門家から学ぶ日本語テストの作り方 第2部「日本語教育・初級レベルにおけ るテスト作成時のポイント」	坂本勝信 (常葉大学経営学部経 営学科)	26 人
5	3月26日(木) 9:30~11:00	研修用マンガ教材「日本語教室をのぞい てみると」～気づきから学び、これから の活動に活かそう～	金田智子 (学習院大学文学部日 本語日本文学科)	21 人
6	3月26日(木) 11:00~12:30	研修用マンガ教材「日本語教室をのぞい てみると」～気づきから学び、これから の活動に活かそう～	金田智子 (学習院大学文学部日 本語日本文学科)	21 人
合計				191 人

■教職員多文化共生講座

小中学校教職員等外国人支援者を対象の夏季集中講座。

共催：浜松市教育委員会「2019年度第3.4回外国人児童生徒指導リーダー研修会」

8月1日(木) 9:30~16:30

(受講者数 延べ 119 人)

回	時間	内容	講師		受講者
1	9:45~ 10:45	ブラジルの学校と日本の学校の 文化の違い	柳澤クリス ティーナ	セメンチ パラ オフ トゥーロ	26 人
2	10:55~ 12:10	「ひょうたん島問題」から多文 化共生を考える	内山夕輝	浜松国際交流協会	26 人

3	13:00～ 13:30	外国人学校「ムンド・デ・アレ グリア学校」見学	松本雅美	ムンド・デ・アレグリア 学校	26人
4	13:40～ 16:15	やさしい日本語研修会	吉開章	やさしい日本語ツーリズ ム研究会	41人

③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催。

参加者数 15人 「第1回放課後学習支援団体情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	12月24日 (火)	13:30～15:00	浜松市教育委員会、浜松国際交流協会、放課後支援団体（龍の会、南の星小学校放課後勉強室、そらの会、浜名外国人サポーター、KSC子どもサポーターズクラブ）	15人

■地域日本語学習コーディネート業務

養成講座修了生による自主グループの立ち上げを支援する。

おしゃべりタイム

日本語ボランティア養成講座修了生による自主グループ活動支援。おしゃべりをしながら交流できる場をつくる。

(全13回)

(参加者数 延べ148人)

	開催日	テーマ	参加者(国別)	
1	5月15日(水)	自己紹介	12人	ペルー5、ブラジル1、フィリピン1、ニュージーランド1、日本4
2	6月11日(火)	天気	13人	中国1、ペルー5、ブラジル2、ベトナム1、ニュージーランド1、日本3
3	6月24日(月)	病気 (食中毒)	6人	フィリピン1、ドイツ1、日本4
4	7月4日(木)	七夕	15人	中国1、ペルー1、インド1、ブラジル3、ニュージーランド1、日本8
5	8月20日(火)	日本の夏	13人	フィリピン3、ベトナム1、タイ1、中国1、ニュージーランド1、日本6
6	9月5日(木)	お月見	17人	中国2、ブラジル1、フィリピン2、ベトナム1、ニュージーランド1、日本10
7	9月17日(火)	スポーツの秋	5人	ブラジル2、日本3
8	10月17日(木)	台風	9人	中国2、ブラジル1、フィリピン1、日本5
9	10月29日(火)	旅行	11人	中国2、ブラジル1、フィリピン2、ヨルダン1、カメルーン1、日本4
10	11月11日(月)	紅葉	12人	中国1、ブラジル1、フィリピン2、ヨルダン1、カメルーン1、イギリス1、日本5
11	12月17日(火)	年末	12人	中国1、ペルー1、ブラジル1、フィリピン3、ヨルダン1、日本5
12	2月13日(木)	ひな祭り	15人	中国3、フィリピン2、イギリス1、ヨルダン1、日本8
13	3月10日(火)	卒業	8人	中国1、ブラジル1、フィリピン2、日本4

■日本語学習支援ボランティアコーディネーター

日本語ボランティア養成講座修了生の活動支援等 69件

日本語ボランティア養成講座では、修了生を対象に丁寧な活動支援を行ってきた。市内のボランティア団体に養成講座修了生を紹介したり、両者のマッチングに同席したりすることで、修了生がスムーズに活動を始められるようコーディネートした。

■日本語コーディネーター（自主事業）

企業内日本語教室コーディネーター	1件
企業への日本語教師募集協力	1件
日本語学校への日本語教師募集協力	1件
個人への日本語プライベートレッスンマッチング	1件
地域日本語教室の立ち上げ相談	1件

■高校生への日本語支援事業（自主事業）

【日本語学習支援教室】

派遣先 静岡県立浜松工業高等学校(定時制) (5月9日～1月16日 計14回)

対象者2人(延べ14人)

派遣者 日本語教師1人

■地域における日本語学習支援業務

地域や外国人コミュニティとの連携により、ニーズを踏まえた日本語学習支援教室を開催。

○フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）(567人)

協力 NPO 法人フィリピン・ナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)	
			はじめての日本語教室	寄り添い教室
5月11日～2月22日 (全28回)	土曜日	13:30～15:30	139人	428人

今年度は、台風・コロナウィルスの影響で教室の中止があった。しかし、例年と同様に多くのフィリピン人児童生徒がハロハロ教室を利用した。毎週、生き活きと生徒が教室内で学んでいる姿が見られ、浜松市内に点在しているフィリピン人児童生徒が、仲間同士で集まれる居場所としての役割を担っている。また、保護者からの相談場所にもなっていて、土曜日だけでは対応できず、曜日や時間を問わず SNS や電話、メールを使いできるだけ相談に対応した。幼少期に来日して以来、日本で生活している日本育ちのフィリピン人児童生徒が増えている。ダブルリミテッドの問題もあり、保護者に対して言語習得についての知識を提供することが必要である。

○ベトナム人の子ども学習支援（ティントウオン教室）(821人)

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)		
			就学前	小学生	保護者会
5月8日～2月19日 (全35回)	水曜日	18:00～20:00	397人	411人	13人

未就学児のうち、ひらがなが読めなかった子ども、スピードの違いはあるもののほとんどが読んだり書いたりができるようになった。他の子と一緒に学習することで人間的成長が見られ自立できるようになった。小学生は、日本語がおぼつかない児童もいたが、漢字をよく覚えて先生を信頼して楽しく休まずに通った。自分で持ってきた学習帳に取り組む子もいた。ゲーム形

式の学習で他と競争することにより能力を高めた。

保護者会には多くの参加があり盛況だった。和気あいあいと互いにコミュニケーションができたと思う。最終の保護者会では試みに学校に休みの連絡をするとき日本語で何と言うか、実際に言ってもらった。正しい言い方を教えると、学習支援の時間に日本語を教えて欲しいという要望があった。

○浜北日本語教室（2,111人）協力 浜北国際交流協会 会場 浜北文化センター 他

期間	曜日	時間	会場	参加者(延)
4月6日～3月28日 (全47回)	土曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	1,560人
4月7日～3月28日 (全10回)	土曜日	午後	企業（出張指導）	20人

文化交流

4月	三井寺・彦根城お花見	42人
7月	日本語能力試験おつかれさま会	60人
10月	御在所岳紅葉	57人
12月	日本語能力試験受験おつかれさま会	50人
1月	書初め	43人
1月	日本語スピーチコンテスト	8人
2月	白川郷雪遊び	57人
3月	着物体験会&ひな祭りお茶会	中止

日本語スピーチコンテスト

- ・開催日 令和2年1月26日（日）
- ・会場 なゆた浜北3階「なゆたホール」
- ・出場者 14人
- ・来場者 約200人

④浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（市委託事業）

浜松市の日本語教育体制の整備・充実を図るため、文化庁事業補助金を活用し、地域の日本語教育の現状や課題、ニーズ等の実態調査を行い、日本語教育推進のための方針を策定した。令和2年度以降は、策定した推進方針を基に地域日本語教育体制づくりを具体的に進める予定である。

取組1：地域の日本語教育推進に係る関係者会議の設置（運営委員会、実行委員会）

取組2：日本語教育に関する地域の実態調査と調査結果まとめ（8～10月）

取組3：地域日本語教育の総合的な推進計画策定（11～2020年1月）

取組4：推進計画に関するシンポジウム等の開催（令和2年2月）

取組1：地域の日本語教育推進に係る関係者会議の設置（運営委員会、実行委員会）

■運営委員会

年間4回開催（1.5時間×4回）

氏名（敬称略）	所属及び役職
石川雅洋	浜松経済同友会政策委員長
金城アイコ	NPO法人アラッセ代表理事
櫻井敬子	浜松市教育委員会教育総合支援センター外国人グループ長
嶋田和子（委員長）	一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事
高畑幸	静岡県立大学国際関係学部教授
丹野清人	首都大学東京人文社会学部教授
針山摂子	With U-Net 日本語講師
松本雅美	学校法人ムンド・デ・アレグリア学校校長
佐藤洋一	公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事
佐藤宏明	浜松市企画調整部国際課課長

■実行委員会

年間5回開催（1.5時間×4回）

氏名（敬称略）	所属及び役職
坂本勝信	常葉大学経営学部准教授
野澤浩樹	浜松経済同友会政策委員
藤岡伸明	静岡大学情報学部講師
古橋広樹	浜松市企画調整部国際課副主幹

取組2：日本語教育に関する地域の実態調査と調査結果まとめ（2019年8～10月）

■企業における外国人材活用意識調査（企業アンケート調査）

調査地域 浜松市全域

調査対象 市内の1,183事業所

調査方法 質問紙郵送法

調査期間 2019年8月16日～9月6日

調査票の回収結果

発送数	有効回答数	有効回答率
1,183	599	50.6%

■日本語学習者実態調査（外国人アンケート調査）

調査地域 浜松市全域

調査対象 市内の日本語教室に通う学習者とその家族・友人

調査方法 市内の日本語教室（13教室）に質問紙を送付し、調査を依頼

調査期間 8月20日～9月30日

使用言語 12言語（インドネシア語、スペイン語、タイ語、ネパール語、フィリピン語、ベトナム語、ポルトガル語、ミャンマー語、英語、韓国語、中国語、日本語）

有効回答数 427

■地域における日本語教室実態調査（地域日本語教室アンケート調査）

調査地域：浜松市全域

調査対象：市内の地域日本語教室13団体

(16歳以上を主対象とした日本語教室を実施している非営利団体)

調査方法：質問紙郵送法

調査期間：8月20日～9月6日

調査票の回収結果

発送数	有効回答数	有効回答率
13	10	76.9%

■外国人の若者の日本語力調査（若者日本語能力調査）

調査地域：浜松市全域

調査対象：市内の外国人学校に在籍する高校生

調査方法：J-CAT（インターネット上で受けられるアダプティブテスト）による、回答者の客観的な日本語能力判定（J-CAT <http://www.j-cat.org/>）

調査期間：11月

受験者数：38名

取組3：地域日本語教育の総合的な推進計画

■浜松市地域日本語教育推進方針（2020年2月策定）

方針の中で、各種主体との連携・協働を重視し、日本語学習機会が公的保障されていない、身分又は地位に基づく在留資格者を主とした施策推進を図ることが明文化された。また、併せて、外国人材を雇用する事業者との関係構築を進め、近年増加傾向にある技能実習等の活動に基づく在留資格の外国人労働者とその家族への生活者として必要な日本語習得支援の効果的な方策についても検討することが明記された。

取組4：日本語教育シンポジウム「浜松市における地域日本語教育の体制づくり」

日時 令和2年2月9日（日）10：00～12：30

場所 クリエイト浜松2Fホール

主催 浜松市（浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業）
文化庁（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業）

内容 基調講演「地域日本語教育推進に向けた施策について」（文化庁日本語教育専門職）
調査報告「地域の日本語教育に関する調査結果報告について」（HICE）

パネルディスカッション「望ましい地域日本語教育の在り方～量的・質的充足と官民連携～」

モデレーター 嶋田和子（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事）

パネリスト 石川雅洋（浜松経済同友会政策委員長）
金城アイコ（NPO法人アラッセ代表理事）

坂本勝信（常葉大学経営学部准教授）

丹野清人（首都大学東京人文社会学部教授）

ゲストスピーカー 増田麻美子（文化庁日本語教育専門職）

参加者 221人

その他 You Tube HICEチャンネルにてインターネット中継の実施及び、終了後は、録画映像を同チャンネルにて配信中

⑤外国人学校への日本語教師派遣事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

外国人学校児童生徒への日本語学習支援のため、市内に所在し、本国政府の認可のある外国人学校に対して日本語教師を派遣する。

学校名	教員数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	学校計
ムンド・デ・アレグリア学校	年間3人	90	118	113	148	82	133	174	157	75	60	108	86	1,344
EAS 伯人学校	年間3～4人	77	101	84	101	94	98	100	97	34	40	96	68	990
エスコーラ・アウカンセ	年間1～2人	35	35	40	32	35	35	30	40	20	0	60	60	422
計		202	254	237	281	211	266	304	294	129	100	264	214	2,756

3. 外国につながる次世代支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

① 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業

調査対象者となった就学年齢の外国籍の子どもに対して、訪問等で就学状況を確認し、状況に応じて就学につなげる。

■ 就学状況の把握

調査内容

	調査項目	回数	対象
A	新小学校1年生	1回（第1回調査）	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国籍の子ども
B	次年度新中学校1年生	1回（第4回調査）	次年度4月に中学校1年生相当の年齢になる外国籍の子ども
C	転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国籍の子ども
D	退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国籍の子ども

調査対象者数

（人）

	調査項目	調査対象者	訪問調査前に就学や異動等が確認された者	訪問調査等対象者
A	新小学校1年生	27	13	14
B	次年度新中学校1年生	34	24	10
C	転入者	76	25	51
D	退学者	69	28	41
	合計	206	90	116

調査方法

訪問回数（不在含む）	232回
訪問により面会できた件数	76件
訪問時は不在だったが、差し置き資料により連絡があった件数	38件

外国人学校・教育総合支援センターへの照会件数	195 件
------------------------	-------

■令和元年度に行った6回の調査の結果

項目			報告時点	
調査対象者 (206)	浜松市に居住 (158)	就学(113) 調査及び支援等により、調査期間中に就学が確認できた者	公立小学校	16人
			公立中学校	9人
			私立中学校	0人
			市内の外国人学校	81人
			市外の外国人学校	7人
		就学が確認できなかった者(34)	就学支援教室・学習施設等に在籍あり	16人
			就学支援教室・学習施設等に在籍なし	18人
			その他対象外案件(11)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階
			母国の通信教育を自宅学習している者	3人
			母国や外国人学校等で中学を卒業した者	0人
	居住実態なし(48) 訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者	居住実態なし	41人	
		国内外への転出	6人	
		長期休暇等で来日(母国で在学中)	1人	
		合計	206人	

【就学が確認できなかった者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	28
フィリピン	5
ベトナム	0
中国	0
ペルー	1
合計	34

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	3
2年生	2
3年生	3
4年生	1
5年生	7
6年生	3
合計	19

中学校	人数
1年生	3
2年生	5
3年生	7
合計	15

小・中学校合計 34人

■ケースに応じた支援

《令和元年度に行った6回の調査で就学が確認できなかった者の現在の状況》

(支援・継続調査・就学支援教室当への在籍確認等による動向：令和2年3月31日現在)

項目			年度末時点	
就学が確認できなかった者 (34)	浜松市に居住 (30)	就学(13) 継続調査及び支援等により、就学に結びついた者	公立小学校	2人
			公立中学校	3人
			私立中学校	0人
			市内の外国人学校	8人
			市外の外国人学校	0人
		実質不就学(16)	就学支援教室・学習施設等に在籍あり	8人
			就学促進教室・学習施設等に在籍なし	8人
			その他対象外案件(1)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階
			母国の通信教育を自宅学習している者	0人
			母国や外国人学校等で中学を卒業した者	0人
	居住実態なし(4) 継続訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者	居住実態なし	2人	
		国内外への転出	2人	
		長期休暇等で来日(母国で在学中)	0人	
		合計	34人	

■実質不就学(全体)が継続した者の内訳 (令和2年3月31日現在)

*平成30年度末時点で実質不就学と確認された8名のうち、令和元年度も実質不就学の3名を含む

項目		人数
実質不就学 (19)	本国政府認可外の学習施設に通っている	3人
	就学支援教室等に通っている(予定含む)	8人
	学校や支援教室に通っておらず、就学予定なし、帰国予定なし	4人
	就学予定あり	3人
	転出予定	1人
全体の合計		19人

【不就学者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	17人
フィリピン	2人
ベトナム	0人
中国	0人
ペルー	0人
合計	19人

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	2人
2年生	3人
3年生	2人
4年生	0人
5年生	4人
6年生	2人
合計	13人

中学校	人数
1年生	1人
2年生	2人
3年生	3人
合計	6人

3) 不就学の期間

期間	人数
半年未満	15人
半年～1年未満	2人
1年～2年未満	0人
2年～3年未満	2人
3年以上	0人
合計	19人

実質不就学者への支援

- ・不就学判明後も家庭訪問等で状況を確認
- ・就学支援教室や教育総合支援センター、学校への案内、及び現場への同行
- ・関係機関、専門機関との連携
(発達障害、虐待やヤングケアラーが疑われるケースなどの困難事例では、関係機関へ相談し、今後の支援について関係者らで話し合う場を設けた)

■外国人学校スクールカウンセラー派遣 (38回)

発達相談支援センター(ルピロ)と連携し、外国人学校にカウンセラー(臨床心理士)の派遣を行った。子どもの不就学理由には家庭の経済的理由だけでなく、発達障害や学習障害が疑われる子ども、複雑な家庭環境により情緒が安定しない子ども等が存在しており、これらの子どもたちが不就学にならないようにするには継続したカウンセリングが必要である。

また、発達相談支援センター(ルピロ)と多文化共生センターにて、年間6回の連絡会を実施し、専門的見地から適切な対処法などについてアドバイスをいただいた。

派遣者 馬塚瑞樹(臨床心理士)

派遣先	学校名	実施スケジュール	実施回数
	エスコラ・アウカンセ	第3水曜日 9:30-11:00	3回
	イーエーエス伯人学校	第3水曜日 12:00-15:00	20回
	ムンド・デ・アレグリア学校	第2・4水曜日 9:30-12:30	9回
	就学促進教室(佐鳴台)	第1水曜日 10:00-12:00	6回
	合計		38回

連絡会議

実施スケジュール	会場	実施回数
隔月第4水曜日 15:00-17:00	浜松市発達相談支援センター(ルピロ) 多文化共生センター	6回

スーパーバイザー 内山 敏氏(浜松市発達相談支援センター所長)

② 定住外国人の子どもの就学促進事業

外国人の子どもの就学促進のため、市内2つの学習機関と連携し、就学等に課題を抱える外国人の子どもの学びの場を確保するとともに、公立学校や外国人学校等教育機関への就学につなげるために必要な支援を実施した。

■在籍数月別推移

佐鳴台教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	0	0	0	0	2	3	3	3	3	3	3	3	23
小学生	1	2	2	4	5	2	1	2	5	8	7	7	46
中学生	1	1	1	2	3	4	6	6	6	7	7	5	49
学齢超過	5	6	6	5	5	9	9	9	9	9	8	6	86
計	7	9	9	11	15	18	19	20	23	27	25	21	204

雄踏教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	1	1	1	1	1	1	4	4	3	3	1	1	22
小学生	1	3	3	1	1	1	3	3	5	5	2	2	30
中学生	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	0	10
学齢超過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	4	4	2	2	4	9	9	10	10	3	3	62

■国籍別在籍実人数

(人)

国籍	佐鳴台教室	雄踏教室	計
ブラジル	29	13	42
フィリピン	5	0	5
ペルー	2	0	2
インドネシア	1	0	1
計	37	13	50

■就学実績等

(人)

就学先等	計
公立小中学校	26
外国人学校	6
公立高校等	3
計	35

《主な就学先》

浜松市立瑞穂小学校、佐鳴台小学校、雄踏小学校、葵が丘小学校、葵西小学校、竜禅寺小学校、萩丘小学校、光明小学校、可美小学校

浜松市立北部中学校、開成中学校、南部中学校、佐鳴台中学校、細江中学校

静岡県立浜松大平台高等学校、新居高等学校

イーエーエス伯人学校、ムンド・デ・アレグリア学校

③ 外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業（419人 21団体）

■外国につながる高校生のための就職応援セミナー

日時 7月1日（月）①10：45～12：30 ②19：35～21：15

会場 静岡県立浜松大平台高等学校

内容 ・正社員で働く意義

・先輩の体験談（スロエタ・ジョセフ：ペルー、立花チアゴ：ブラジル）

・企業紹介（鈴与カーゴネット、鈴与カーゴサービス、聖隷福祉事業団、総合自動車学校、ENEOS ウイング）

参加者 ①Ⅰ・Ⅱ部 所属生徒 約100名 ②Ⅲ部 所属生徒 約50名 合計約150名
企業5団体

成果 2人の先輩の話については、がんばれば報われる事例として、また、社会貢献をしたいという思いで仕事を選んだという視点などが参考になった。今年度初めて保護者に参加を呼びかけ、1名参加してくれた。保護者が正社員とアルバイトの違いや新卒採用の意味など、日本の雇用習慣などを知る機会にもつなげることができた。

■関係諸機関とのネットワーク会議

外国人青少年の支援に係る関係諸機関との連携体制を構築するため、ネットワーク会議を実施した。

日時 7月17日（水）12：30～13：50

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター23会議室

参加 16団体（県立高校、外国人学校、行政機関、NPO法人等支援機関等）

内容 平成30年度事業報告、令和元年度事業説明、参加団体情報交換

■外国にルーツを持つ青少年のための仕事発見セミナー

日時 7月17日（水）14：00～16：20

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター21、22+23会議室、コンgresセンター

内容 ・企業ブース見学ツアー（第13回ビジネスマッチングフェア in はままつ協力）

・足立貴史氏（東海道シグマキャリアコンサルタント）の講話

参加者 99人

参加校 新居高校（定時制）、浜松北高校（定時制）、浜松湖東高校、NPOアラッセ、ムンド・デ・アレグリア、東海道シグマ

協力 浜松いわた信用金庫（第13回ビジネスマッチングフェア in はままつ）

成果 今回より、浜松北高校（定時制）が学校行事の一環として位置づけたことで、全員参加となり、多くの生徒にセミナーへ参加してもらうことができた。実際、参加した学生らのアンケート結果と、浜松北高（定時制）教員の評価が高く、次年度以降の継続も望む声があがった。講話もわかりやすく非常に良かった。企業ブース見学でも、企業が積極的に実演を交えて説明してくれたので、生徒の心に響いたようだ。

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張 COLORS）

趣旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、特に外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行った。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげることを目的とした。

日時 12月9日（月）、12月16日（月）10時45分～12時30分／19時35分～21時15分

会場 静岡県立浜松大平台高校

対象 静岡県立大平台高校定時制Ⅰ・Ⅱ部の3年生およびⅢ部の全学年の生徒

参加者 170名（Ⅰ・Ⅱ部の3年生108名、Ⅲ部の全学年55名、COLORSメンバー7名）

内容 ①COLORSがライフストーリーを紹介、他人による自分の長所探し、いろいろな職業探し

②人生で大切にしたい価値観についてカードソートで考える、未来の自分を考える

成果 高校側に授業の一環として出張COLORSを年間スケジュールに組み込んでもらったことで実現した。専門学校への進学を考えていた外国にルーツを持つ生徒は、メンバーに直接質問し、大学進学は将来の選択の幅が広がると教わったようだ。COLORSメンバーは新規メンバーや社会

人メンバーが参加し、来年度の新たな活動に向けて始動する機会にもなった。福井新聞社から取材され、外国人散財地域からも注目を浴びている取り組みとなった。

④ 当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援(自主事業:自治体国際化協会助成)

平成30年度の「当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援事業」の発展として、引き続き外国人託児所の保育の質の向上(H30年度は動機づけの研修、H31年度は具体的な研修)、ブラジル人保護者の子育てに関する意識向上(H30年度に作成した小冊子等を配布・活用、さらに対象を妊婦への拡大)を行った。

■ブラジル人託児所対象事業

○幼児教育専門家を派遣 (各託児所2回)

ラピス・デ・コロ託児所	ピメンティーナ・キッズ託児所	レイノ・ダ・アレグリア託児所
7月3日(水) 細田直樹 (聖隷クリストファー大学教員)	8月5日(月) デビデ・ヴァンデル (心理分析専門家)	7月29日(月) デビデ・ヴァンデル (心理分析専門家)
7月22日(月) デビデ・ヴァンデル (心理分析専門家)	12月10日(火) 細田直樹 (聖隷クリストファー大学教員)	11月22日(金) 細田直樹 (聖隷クリストファー大学教員)

成果 日本人とブラジル人の幼児教育専門家や児童心理の専門家に託児所の現場を訪問していただき、子どもたちとスタッフの日常の様子を見た上でアドバイスをもらうことができた。現場ではスタッフによる「怒鳴り声」や「テーブル叩き」などが見られ、多くのスタッフが多忙な日々ストレスが溜まっていることが明らかになった。これに対し、ブラジル人専門家に母語で気楽に相談ができる時間を作ってもらい、状況改善に向けてアドバイスをしてもらうことができた。

保育環境についても専門家によるアドバイスを受け、おもちゃの数や机の高さなど、環境改善が見られた。

その他、発達障害が疑われる子どもの様子を観察してほしいと園からの依頼を受け、専門家が上手に親を納得して発達支援機関へつなぐことができた子どももいる。

○認可保育園にて保育研修(18時間)

期間 令和2年1月20日(月)～1月24日(金)

時間 8:30～12:30 (最終日は8:30～10:30)

研修先 しんえい保育園(浜松市中区泉2丁目31-10)

参加者 カルバーリョ・エジソン(ピメンティーナ・キッズ託児所経営者)

成果 自分の託児所の時間割を見直し、食事の時間を調整したり絵本の読み聞かせを増やしたりするなど、具体的な改善を行う事ができた。

○ポルトガル語による「ストーリーテリング」(2回)

日時	8月2日(金) 8:30～10:30	9月7日(日) 9:00～10:30
託児所	ラピス・デ・コロ託児所	ピメンティーナ・キッズ託児所
ストーリーテラー	タマザト・ロベルト・ケイイチ	アンジェリカ・ハタ
参加者数	18人(4歳～6歳)	9人(4歳～5歳)
成果	演劇を取り入れて面白く読み聞かせを行うことができ、子どもたちの絵本への関心が見られた。	

○ブラジル人専門家によるワークショップ (1回)

テーマ 「親子で日本での就学に備える」

日時 7月28日(日) 10:00~12:00

会場 多文化共生センター

講師 パトリア・ガルシア (チョウチョウ・プロジェクト)

パトリシア・エサキ (チョウチョウ・プロジェクト 心理士)

参加者数 11人

成果 セルフエスティームや日本文化の理解、異文化の中で生きるためのワークショップを行い、特に親からは「自分自身の経験を振り返る機会ともなった」との感想があった。また、子どもたちがこれから日本の小学校へ進学するにあたり「異文化によるストレスの軽減が期待できる」とのコメントが寄せられた。

○子育てについての講演会 (1回)

日時 7月14日(日) 15:30~16:30

会場 浜松市農村環境改善センター

講師 デビデ・ヴァンデル (心理分析士)

参加者数 18人 (レイノ・ダ・アレグリア託児所保護者)

成果 幼児教育の重要性について学び、保護者も独自で育児についての勉強が必要だと気づくことができた。託児所の園長からは、これから毎年保護者向けの講演会を行ってほしいとの要望もあり、幼児教育についての関心度が上がった。

■ブラジル人保護者対象事業

○浜松ブラジル人保護者の集い (3回)

日時	9月29日(日) 14:00~16:30	11月10日(日) 14:00~16:00	11月10日(日) 16:00~18:00
テーマ	いじめについて	わがまを許すこと 効果的なしつけの違い	ゲーム依存症について
会場	多文化共生センター	多文化共生センター	クリエート浜松 54会議室
講師	パトリシア・エサキ (チョウチョウ・プロジェクト)	デビデ・ヴァンデル (分析心理士)	デビデ・ヴァンデル (分析心理士)
	パトリア・ガルシア (チョウチョウ・プロジェクト 心理士)	ナシメント・ワグネル (EASブラジル人学校 校長・教育士)	ナシメント・ワグネル (EASブラジル人学校 校長・教育士)
ファシリテーター	杉野アドリアーナ (Institute for International Education and Culture)		
参加者数	16人	14人	14人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめに関する電話相談」や「教育総合相談センター」の存在を知らせることができて、有意義な情報共有もできた。 ・テレビを見る時間を制限したり、番組を選んだり、就寝時間を決めたりすることなど、生活リズムを整えることについて、分析心理士と教育士のそれぞれの視点による具体的な提案があり、参加者からは「とても参考になった」との声が多かった。 ・「ゲーム依存症」については、ブラジルでも大きな課題であり、活発な議論が行われた。講師は事例を動画で解説し、場合によっては専門機関へつなぐ必要があると語った。これをきっかけに浜松で行われているメンタルヘルス事業や専門機関の紹介もできた。 		

○妊婦さんのための勉強会（2回）

日 時	10月26日（土） 9:30～12:30	11月16日（土） 9:30～12:30
内 容	日本とブラジルの産科システムの違い、食生活の重要性、出産に関するオリエンテーション	出産時の痛みのコントロールやお産の進み方、妊娠中の性行為などについて
会 場	多文化共生センター	
講 師	平田 ルジミーラ（ドゥーラ） 武田江里子（浜松医科大学大学院系研究科看護学専攻 助産学分野）	
ファシリテーター	村上 バネッサ（ママランド代表）	
参加者数	10人	7人
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・カップルで出席した人が多く、ファシリテーターによるアイスブレイクを始め、妊婦さんは楽しく学ぶことができた。 ・浜松医科大学の協力により、新生児の人形の貸し出しもあり、リアル感を持った勉強会であった。 	

○「日本で就学するまでの準備」冊子の周知のための出版記念イベント（1回）

日 時 4月13日（土）

会 場 クリエイト浜松ホール

内 容 マンガ作成者によるトークショー

来 賓 浜松市長、浜松市教育長、湖西市長、湖西市教育長、ブラジル大使代理、在東京ブラジル総領事、在浜松ブラジル総領事

参加者数 283人

成 果 マンガ家のマウリシオ・デ・ソウザ氏の来日に合わせ、多くの保護者や来賓、教育関係者を招き、幼児教育の重要性に気づいてもらうイベントとすることができた。またこのイベントをきっかけに多くのブラジルと日本のメディアに取り上げてもらうことで、冊子の広報につなげることができた。

○当協会のホームページに「子育てについて」の情報を掲載

内 容 「子育て支援ひろばについて」「助産所」「障害児が利用できる施設」「赤ちゃんの観察点」「乳幼児の事故防止」「認可保育園」「認定こども園・幼稚園・保育園の違い」「病気・けがの緊急連絡先」「母子健康手帳の交付」「放課後子ども教室」「子供を一時的に預けることができるサービス」など。

言 語 ポルトガル語・英語

成 果 浜松市内の子育て情報については日本語版としては「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」が充実しているが、日本語が苦手な在在外国人にはアクセスしづらい。外国人向けの当協会のホームページにその内容の一部を翻訳して記載することで在在外国人が子育て情報にアクセスしやすくなった。

4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）

参加者数：延べ159人23件（前年度200人17件）

① 各地域への個別支援（22自治会から23件の相談）

自治会 県営佐鳴台団地、浜北小林下、細江町二区、神田、鴨江、豊岡団地、遠州浜第三、早出町、浜北小松、篠原東、本郷町東、佐鳴台三丁目、湖東団地、細島町、曳馬宮、葵西、佐鳴湖西岸団地、浜北県営団地、倉松町、河輪町下、寺島東、安間町

相談内容 戸建て住宅の地域に外国人住民（それぞれフィリピン、ブラジル、ベトナム）が新築して越してきたので自治会のルールやマナーを伝えたい。
バーベキュー等で夜遅くまで友人・知人と屋外で話をしているため騒音となっているので、マナーを伝えたい。
ゴミの分別ルールの周知徹底（ダンボールやアルミ缶などゴミの分別収集の表にのっておらず、各地域で小中学校等による集団回収で行っていたり、民間のリサイクルボックスでの回収を行っているものなど）
自治会費・共益費の集金（自治会費等の用途の説明や集金方法など）

戸別訪問 浜北小林下(2回)、篠原東(1回)、湖東団地(1回)

② 地域共生自治会会議（18人）（前年度50人）

「何が変わる！？『外国人労働者受入れ拡大』大学教授が解説します」

日時 7月6日（土）10：00～12：30

会場 クリエイト浜松2階ホール

講師 池上重弘（静岡文化芸術大学副学長・教授）

事例発表 野中康司（佐鳴湖西岸市営・県営住宅 副会長）

参加者 170人（うち、14自治会、18人参加）

③ ブリッジビルダー育成（141人）（前年度150人）

「外国人住民への効果的な支援サービスとは 実務セミナー」

日時 7月23日（火）13：30～16：40

会場 クリエイト浜松2階ホール

内容 ①浜松市の外国人住民の現状と多文化共生施策・HICEの取り組み

講師：松岡真理恵（HICE多文化共生コーディネーター）

②異文化を理解するとは～外国人の考え方

講師：キクヤマ リサ（HICE多文化共生コーディネーター）

③「やさしい日本語」～コツを知って使えるようになる

講師：鈴木由美恵（HICE地域日本語コーディネーター）

参加者：141人（社会福祉協議会職員、民生委員、保護士、行政書士、弁護士、保育士、市職員、労働基準監督署職員など）

5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）

① 災害時多言語ボランティア養成研修

第1回 「防災学習センター見学」

日時 10月27日（日）14:00～16:00

会場 防災学習センター

参加者 27人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム）

第2回 「遠州病院 災害時訓練での通訳シミュレーション」(災害時に備えたネットワーク強化)

日時 11月9日（土）8:45～12:45

会場 遠州病院、遠州鉄道新浜松駅、アクト通り

参加者 23人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム）

第3回 「防災用語をやさしい日本語で学ぶ」

日時 12月8日(日) 14:00~16:00

会場 クリエイト浜松 51 会議室

講師 浜松市危機管理課

参加者 33人(ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム)

② 災害時多言語支援センター設置訓練

日時 令和2年2月5日(水) 13:30~16:30

会場 多文化共生センター

参加者 19人(HICE職員16人、浜松市国際課職員3人)

内容 HICE職員が情報班と総務班に分かれ、情報班は浜松市や静岡県からくる情報をやさしい日本語および多言語(英語、ポルトガル語、フィリピン語)に翻訳。総務班は災害時多言語支援センターの備品の確認、発電機の試用などを行った。

③ 災害・防災情報の提供(67件)

Facebookで災害情報を多言語で発信 合計67件

月	件数	内容
6月	1	台風3号情報
7月	4	河川避難情報等等
8月	1	サバイバル飯焚き
10月	22	台風19号情報等
11月	1	地域防災の日の案内
12月	1	地域防災の日の案内
1月	3	新型コロナウイルス関連情報等
2月	8	新型コロナウイルス関連情報等
3月	26	新型コロナウイルス関連情報
合計	67	

④ 多言語防災マップ作成(自主事業)

形式 A2

言語 バージョン①→日本語、ポルトガル語、スペイン語

バージョン②→日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語

発行数 各3000部

成果 浜松市内の避難所や防災ホットメールの案内など、防災や災害時に役立つ情報を記載。外国人コミュニティの防災意識向上のために、在浜松ブラジル総領事館や在東京ペルー協和国総領事館、メキシコ大使館、在名古屋フィリピン大使館、ベトナム大使館、インドネシア大使館からのメッセージもいただいた。

6. 多様性を生かしたまちづくり事業 (市委託: 多文化共生センター事業)

① はままつ多文化共生 MONTH(月間) 事業

10月を「はままつ多文化共生 MONTH(月間)」として多文化共生についての啓発を行った。

■フリーペーパー2種に特集記事を掲載

・株式会社「ぼど」が発行する女性向けフリーペーパー「We:la(ウィーラ)」9月13日号

見開き 2 ページで国際交流・多文化共生特集を組んだ。(ハラルクッキング講座の様子、世界のグルメ特集として、ペルー、フィリピン、フランス、イギリスの方にソウルフードなどをインタビュー。浜松の外国人事情を数字で紹介)

・「中日ショッパー」9月20日号

HICE イベントである「英語で学ぶインドの伝統アート」を紹介。HICE の概要紹介。

■啓発リーフレット(両面カラー)「はままつ外国人アレコレ」を作成

2019年4月に出入国管理法が改正され、外国人の増加が世間一般的にも注目されたタイミングだったこともあり、一般市民向けに改めて、浜松に外国人が多く住む歴史的な理由や人数、在留資格、国籍の割合など基本情報のほか、「やさしい日本語」を紹介した。

成 果 「ウィーラ」や「中日ショッパー」に特集記事を掲載することで、普段関心の薄い層に読んでもらえるきっかけができた。啓発リーフレットは、見た目をカラフルでイラストを多くし、Q&A形式で市民の疑問に答える内容を1枚にまとめたことで、出前講座やセンターへの視察訪問者などへ渡すものとしても効果があった。

②文化・スポーツ紹介

Facebookにより浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。

文化情報 9件 スポーツ情報 3件 合計 12件

③地域活性化事業

■外国人留学生と企業の交流会 (276人)

日 時 7月18日(木) 13:30~15:30

会 場 アクトシティハママツ コングレスセミナー2階 21会議室、産業展示ホール

参加者 留学生 26人(静岡大学、産業大学、日本語学院、浜松情報専門学校)

企業・学校などオブザーバー6人

内 容 1) 講義「浜松の産業特性と特色ある企業集積について」

講師:(公財)浜松国際交流協会 業務執行理事 佐藤洋一

2) 企業ブース見学ツアー(3つの班に分かれ、各班3社を回る。1班は英語通訳つき)

協立電機(株)、(株)ミヤキ、(株)フェイス 21、(株)アライデザイン工芸、ジェトロ浜松、社会保険労務士法人村松事務所、(株)エヌエスティー、(株)日本設計工業、(株)ウチゲン、(株)丸源竹内組、システック(株)

成 果 浜松信用金庫の協力を得て、「ビジネスマッチングフェア 2019」の出展企業を回り、説明を受けた。浜松および近隣に高度な技術をもつ企業が多くいることを留学生に知ってもらい非常によい機会となった。

■日本での起業フェア

日 時 11月15日(金) 11:00~17:00

会 場 クリエート浜松 1階ふれあい広場

参加者 企業 10社(ブラジル食品店、ペット美容院、家のリフォーム会社等)

参加者 100人

成 果 出展者からはフェアをきっかけに就職やビジネス発展できたとの声があり、はじめて日本人向けにサービスを紹介するチャンスがあったので大満足することが出来た。

■外国にルーツを持つ高校生のための就職応援セミナー（再掲）

日 時 7月1日（月）①10：45～12：30 ②19：35～21：15

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

内 容 ・正社員で働く意義

- ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談（スロエタ・ジョセフ：ペルー、立花チアゴ：ブラジル）
- ・企業紹介（鈴与カーゴネット、鈴与カーゴサービス、聖隷福祉事業団、総合自動車学校、ENEOS ウイング）

参加者 ①Ⅰ・Ⅱ部 所属生徒 約100名 ②Ⅲ部 所属生徒 約50名 合計約150名 企業5社

④アートで多文化共生を考える

“ゆれるアイデンティティ”アートで多文化社会を考える～移民社会オーストラリアからゲストを迎えて～

日 時 4月20日（土）12：15～18：00、4月21日（日）10：00～18：00

会 場 浜松市鴨江アートセンター、グランドホテル浜松

参加者 120名

内 容 【1日目】オーストラリアのモナシュ大学教授およびイミグレーションミュージアム職員による取り組み紹介／移民ルーツの作家による実体験とエスニックマイノリティ若者たちとの活動紹介／浜松で国際結婚した夫婦のトーク・対談／アーティストによる3つのワークショップ（アイデンティティを書き出す／新しいカードゲームを作る／くじびきドロ잉）、外国にルーツを持つ若者グループ COLORS による若者座談会
【2日目】まちづくりワークショップ／浜松ロータリークラブによるワークショップ審査結果発表、表彰タイム、交流会

成 果 鴨江アートセンターと初めて協働したことにより、多文化共生について考える手段としてアートを用いたワークショップのアイデアを取り入れることができた。参加者数は予想に反して定員を上回った。オーストラリアやアートの取り組みに関心のある一般市民、東京の博物館職員、大学教授のほか、外国にルーツを持つ中高生や、大学進学で浜松に来た学生、元帰国子女の若い社会人もおり、若者座談会では終了時間を過ぎても会場に残って交流する姿が見られた。

⑤フェスタ・サンバの運営

浜松カップ「フェスタ・サンバ2019」

日 時 10月6日（日）12：30～16：00

会 場 鍛冶町通り

来場数 約18,000人

内 容 サンバを通じて日本人市民と外国人市民の交流を促進し、多文化共生都市浜松を全国へ発信するため、ペルー人によるマリネラダンスや日本の子どもたちによるブラジル応援チアダンスの披露、全国のサンバチームによるコンテストを実施した。

成 果 実行委員会事務局として、中心市街地の自治会や商店・まちづくり関係者、公募した市民ボランティアらと共にフェスタ・サンバを実施し盛り上げる事が出来た。

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

(市委託：多文化共生センター事業) (2,486人)

■学校等への派遣

学校名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市立伊佐見小学校	1人		小学生 115人
静岡文化芸術大学	1人	2人	大学生 150人
浜松市立佐鳴台中学校	2人		中学生 80人×2回
静岡県立浜名高校	1人		高校生 369人
浜松市立看護専門学校	1人×4回	1人×8回	看護学生延べ 560人
浜松医科大学		1人	大学院生 6人
常葉大学 (経営学部)		1人	大学生 51人
常葉大学 (外国語学部)		1人	大学生 130人
浜松日本語学院		1人	日本語教師養成講座受講者 18人
名古屋外国語大学		1人	大学院生 5人
静岡県立大学		1人	国際関係学部教員 40人
浜松学院大学		1人	大学生 70人
E. A. S ブラジル人学校		1人	教員 20人
E. A. S ブラジル人学校		1人	保護者 50人
14校	合計 28人		合計 1,744人

■協働センター等への派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市立篠原中学校 PTA		1人	15人×2回
浜松市積志協働センター	1人		12人
浜松市積志協働センター	1人		9人
浜松市立青少年の家	1人		小学生 20人
合計 4か所	合計 4人		合計 71人

■団体等への講師派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
Shizullatinos		1人	ペルー人 20人
フィリピン・ナガイサ		1人	フィリピン人 12人
姫路市文化国際課		1人	財団職員等 30人
地域科学研究会		1人	議員、行政職員 10人
静岡行政監視行政相談センター		1人	30人
中区地区社会福祉協議会連絡会		1人	30人
社会福祉協議会浜松地区センター		2人	60人
静岡県行政書士会西遠支部		1人	32人
浜松ロータリークラブ		1人	会員 60人
愛知県国際交流協会		1人	養成講座受講者 40人

菊川市多文化共生サポーター研修会		1人	7人
菊川市多文化共生地域づくり検討委員会		1人	行政職員 17人
(公社) 静岡県防犯協会連合会 静岡県警察本部	1人	1人	180人
日本語テスト学会研究例会		1人	50人
常葉大学地域連携事業実施報告会		1人	60人
外国人児童生徒等の教育の充実に 関する有識者会議 (文科省)		1人	43人
合計 16 か所		合計 18人	合計 681人

■学校・団体等からの訪問受け入れ

学校名・団体名	訪問先・期間		訪問者数
	多文化共生センター	外国人学習支援センター	
静岡文化芸術大学 (インターンシップ)	7日		3人
浜松学院大学 (インターンシップ)	48日		1人
常葉大学短期大学部	5日		2人
司法修習生	2日	1日	1人
指定都市市長会・担当会長会議	1日	1日	30人
静岡大学 工学部・情報学部	1日		36人
焼津市市民部市民協働課	1日	1日	3人
(公財) 日本国際交流センター	1日	1日	8人
静岡大学教育学部附属浜松中学校	3日		2人
自治体国際化協会	1日		2人
中央大学・広島大学	1日		2人
静岡県議会	1日		14人
ニッポン複雑紀行	1日	1日	4人
アメリカ コロラドカレッジ	1日		9人
浜松学院中学校	1日		25人
自由民主党静岡市議会議員団	1日	1日	1人
慶應義塾大学総合政策学部	1日		10人
福岡市議会総務財政委員会	1日	1日	19人
群馬県議	1日	1日	16人
静岡文化芸術大学文化政策学部	1日		19人
西遠女子学園高校	1日		2人
静岡市教育委員会 小学校社会科副読本改訂委員会	2日		2人
浜松市立与進中学校	1日		8人
愛知大学地域政策学部	1日		1人
広島市市民局人権啓発課 (公財) 広島平和文化センター	1日		2人
浜松情報専門学校	1日		33人
浜松市立篠原中学校	1日		4人
浜松市立湖東中学校	1日		3人
自治体国際化協会 体験塾	1日	1日	20人
豊田市教育委員会教育政策課		1日	8人
静岡人権擁護委員協議会	1日	1日	40人
埼玉市議会議員	1日		1人

浜松学院大学	1日		1人
神戸市市長室国際部国際課	1日		1人
横浜市国際局政策総務課(委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)	1日	1日	2人
上越市役所	1日		8人
事業創造大学院大学	1日	1日	3人
浜松市立看護専門学校	1日		5人
愛知大学地域政策学部	1日		1人
青山学院大学国際政治経済学部	1日		1人
明治学院大学法学部	1日		1人
高崎経済大学	1日		1人
遠州広域行政推進会議(首長会議)	1日		9人
三重県津市役所	1日		3人
やまぐち外国人総合相談センター	1日		3人
浜松医科大学	1日		1人
(公財) 全国市町村国際文化研修所	1日		2人
津田塾大学・首都大学東京大学院	1日		4人
世界人権宣言大阪連絡会議	1日		10人
武蔵野美術大学造形構想学部		1日	6人
北海道教育大学		1日	1人
広島市多文化共生課		1日	2人
筑波大学・茨城県教育庁		1日	5人
参議院文教科学委員会調査室		1日	3人
浜松市議会総務委員会		1日	14人
福岡市国際政策課		1日	1人
鳥取県境港市(文化庁日本語事業)		1日	1人
外務省中南米日系社会連携担当大使		1日	1人
49 団体	延べ 117 日		合計 387 人

②グローバル人材セミナー（市委託：多文化共生センター事業、自主事業）

■「何が変わる！？『外国人労働者受入れ拡大』大学教授が解説します」

日時 7月6日(土) 10:00~12:30

会場 クリエイト浜松 2階ホール

講師 池上重弘(静岡文化芸術大学副学長・教授)

参加者 170人

内容 2019年4月の入管法改正をきっかけに外国人の増加が見込まれることに対して関心がある市民を対象に、新たな在留資格のポイントや政府の対応のほか浜松の外国人受入30年間の取り組みや外国人の現状について、事例を交え解説した。

■「大学生によるバングラデシュでの国際協力活動の報告会」(自主事業)

日時 6月1日(土) 10:00~12:00

場所 多文化共生センター

講師 稲川望氏(静岡文化芸術大学3年生)

内容 2018年から1年間バングラデシュの首都ダッカに滞在し、ストリートチルドレンの支援を行うNPOエクマットラでインターンをした経験やロヒンギャ難民の現状についての報告

参加者 25人

③国際理解教育講座（自主事業）（131人）（前年度 83人）

■「インドネシア人女性から学ぶハラール料理」

日 時 7月27日(土)10:00～12:30
 場 所 クリエイト浜松 キッキングルーム
 講 師 インディアティノビザ氏
 内 容 ハラールのレクチャー、インドネシア調理（ミーゴレン、ガドガド）
 参加者 21人

■「国際理解教育ファシリテーター養成講座」

場 所 多文化共生センター
 主 催 はままつ国際理解教育ネット
 内 容 多文化共生、貧困、環境問題などの今日的課題について取り上げ、国際理解教育に関する概要を学ぶとともに、ファシリテーターとしてのスキルの取得を目指す4回講座。今年度は「SDGs～浜松の持続可能なミライを考える4日間～」として、SDGsをメインテーマに取り上げた。例年より参加者が増え、10代～20代の若者や教員の参加が多く、SDGsへの関心の高さが窺えた。

	日 時	内 容	講 師	参加者
1	11月10日(日) 13:00～17:00	「わたし・あなた・みんなの未来へつながるSDGs」	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一氏	28人
2	11月17日(日) 13:00～17:00	「ジェンダー平等ってなに!？」	はままつ国際理解教育ネット 瀬戸誠氏	28人
3	12月1日(日) 13:00～17:00	「水を巡る課題と解決策とは!？」	はままつ国際理解教育ネット 北村慎哉氏 ゲストスピーカー：日本貿易振興機構（ジェトロ）ダッカ事務所長 安藤裕二氏	30人
4	12月15日(日) 10:00～17:00	あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一氏 ゲストスピーカー：中国・アモイ大学講師 鄒 聖傑氏	24人

④第10回はままつグローバルフェア（自主事業）（3,400人）（前年度 4,700人）

目 的 ①広く市民（特に次世代を担う子ども・若者）に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての一步の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

②浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体や個人に企画者として参加してもらうことで、団体間の協力関係を構築する。より多くのアマチュアの市民グループにダンス・音楽などのステージに参加してもらうことで発表の機会を提供する。

日 時 令和2年2月9日(日) 10:00～17:00

場 所 クリエイト浜松

参加者 約3,400人（*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により客足が伸びず）

主 催 公益財団法人浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット、公益財団法人浜松市文化振興財団（クリエート浜松）

後 援 浜松市、浜松市教育委員会、独立行政法人国際協力機構中部センター（JICA 中部）、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、FM Haro!、K-mix

内 容

1階			
会場	ブース名	担当	内容
ふれあい広場	アートマイル	JICA	世界の子どもと日本の子どもがコラボで描いた巨大絵画展示
	ワールドマーケット	HICE	海外の雑貨やフェアトレードグッズで世界を感じるお買い物
	ワールドステージ	HICE	フォホー披露、フィリピンダンス体験、インドネシアの歌披露、サンバ体験、阿波踊り、サンバ×阿波踊り
創造活動室	食堂	HICE	フードコート
外：中庭	世界の料理	HICE	世界の料理の販売
2階			
ホール	開会式	HICE	市長、ブラジル総領事来所
	シンポジウム	HICE	浜松市における地域日本語教育の体制づくり
	ワールドステージ	HICE	ブラジルダンス フォホー体験
ホール前	アートWS	HICE	多言語でくじびきドローイングワークショップ
21 講座室	JICA 紹介 ストラップづくり	JICA はま国	JICA 紹介～世界を知るコーナー～ ストラップ作りで世界とつながろう
22 講座室	国際理解教育 WS	はま国	国際理解教育ワークショップ
アトリエ	巨大積み木	オイスカ	間伐材をつかった積み木で巨大なオブジェをつくる
4階			
HICE 事務局	本部・総合案内所	HICE	総合案内所、スタンプラリーゴール
セミナールーム	パネル展示	HICE	HICE の今までの歴史を写真パネルで紹介
特別会議室	控え室	HICE	ワールドステージ出演者 控え
文芸館講座室	控え室	HICE	ボランティアスタッフ控え室
5階			
スタジオ	イスラム文化紹介	HAMKA	インドネシア・バングラデシュ文化紹介・体験
51 会議室	おしゃべり	グローバル ハウス	いろいろな国の人とおしゃべり
52 会議室	タガログ語	フィリピン ・ナガイサ	フィリピンのやさしいタガログ語体験教室
54 会議室	英語で生け花	Yumehana school	英語で生け花体験
和室1（萩）	着付け体験	Yumehana school	着付け
和室2（松）	茶道体験	浜松ユネス コ協会	茶道体験

⑤多文化体験・交流事業(市委託:外国人学習支援センター事業) (2,305人)(前年度2,527人)
外国人市民と日本人市民が相互の文化を理解し、市民同士の交流を深める体験講座、体験イベント。

■多文化体験(受講者数 延べ155人)

	日程	コース	講師	参加者
1	5月29日(水)	校外学習	おしゃべりタイム	31人

2	7月19日(金)	防災訓練	浜松国際交流協会	33人
3	7月19日(金)	流しそうめん	おしゃべりタイム	38人
4	12月6日(金)	校外学習	おしゃべりタイム	30人
5	1月17日(金)	防災訓練	浜松国際交流協会	23人
6	3月25日(水)	お花見	おしゃべりタイム	中止
合計				155人

■多文化イベント

	第1回	第2回	第3回
テーマ	フェスタジュニーナ (ブラジルの収穫祭)	浴衣 de 盆踊り	文化祭
開催日	6月30日(日)	7月27日(土)	11月23日(土)
場所	イーエーエス伯人学校	雄踏小学校	外国人学習支援センター
協力	セメンチ パラ オ フ トゥーロ	おしゃべりタイム	セメンチーニャ、NPO 法人こ ろころねっと浜松、雄踏そ ば打ち同好会、民生委員協 議会、雄踏さつき同好会
参加者	天候不良により中止	天候不良により中止	2,150人
合計			2,150人

⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座(市委託:外国人学習支援センター事業)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ブラジルホストタウンとしての受け入れ機運醸成や、ボランティア参加意識の向上を目指した講座を開催した。

	内容	日時	講師	参加者
1	Vamos!!ブラジルチームを応援しよう	8月29日(木) 13:30~15:00	椎木マリナ	17人
2	寸劇ブラジル×日本 融和のあゆみ	11月23日(土) 10:00~12:00	セメンチーニャ	103人
3	Vamos!!ブラジル移民の歴史を知ろう	12月19日(木) 13:30~15:00	椎木マリナ	25人
合計				145人

2. 国際交流・理解事業

1) 外国語講座

①国際交流のための外国語講座(自主事業)(249人)(前年度204人)

■国際交流のためのタイ語講座:初級(全8回)

講師 植木チュダー

日程 火曜日 19:00~20:30

第2期	10月8日~12月3日	7人	受講者 合計13人
第3期	1月10日~3月6日	6人	

■国際交流のためのポルトガル語講座:初級(全12回・8回)※3期は初級・初中級合同

講師 柳澤クリスティーナ

日 程 火曜日 19:00~20:30

第1期	5月14日~7月30日	15人	受講者 合計49人
第2期	9月10日~12月1日	15人	
第3期	1月14日~3月3日 ※2/4~2/11休	19人	

■国際交流のための英語講座：中級（全12回・全8回）

講 師 マーティン・ギブズ

日 程 水曜日 10:00~11:30

第1期	5月15日~7月31日（全12回）	15人	受講者 合計41人
第2期	9月11日~11月27日（全12回）	14人	
第3期	1月8日~2月26日（全8回）	12人	

■国際交流のための英語講座：上級（全12回）

講 師 第1期 ジェームス・アシュリー 第2期 ダニエル・ダメット

日 程 木曜日 19:00~20:30

第1期	5月16日~8月1日	11人	受講者 合計26人
第2期	9月12日~11月28日	15人	

■国際交流のためのベトナム語講座：初級（全12回・8回）

講 師 坂井亜美

日 程 水曜日 19:00~20:30

第1期	5月15日~7月31日	14人	受講者 合計39人
第2期	9月11日~11月27日	15人	
第3期	1月15日~3月4日	10人	

■国際交流のためのポルトガル語講座：初中級（全12回）

講 師 柳澤クリスティーナ

日 程 木曜日 19:00~20:30

第1期	5月16日~8月1日	15人	受講者 合計30人
第2期	9月12日~11月28日	15人	

■国際交流のためのインドネシア語講座：初級（全12回・6回）

講 師 川越レニ

日 程 金曜日 19:00~20:30

第1期	5月17日~8月2日	6人	受講者 合計20人
第2期	9月13日~11月29日	9人	
第3期	1月10日~2月28日	5人	

■国際交流のためのスペイン語講座：初級（全12回・6回）

講 師 野国マリエラ

日 程 金曜日 19:00~20:30

第1期	5月17日~8月2日	12人	受講者 合計31人
第2期	9月13日~11月29日	13人	
第3期	1月10日~2月28日	6人	

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（251人）（前年度 254人）

■英語を通じて世界を知ろう！「世界のE-文化」（240人）

時 間 13:30～15:30

会 場 多文化共生センター

日程	講師	参加者
4月21日（日）	ブライアン・ハグドーン（アメリカ）	16人
5月19日（日）	山下パトリシア（フィリピン）	27人
6月16日（日）	キム・ヒュンウ（韓国）	23人
7月21日（日）	パトリシア・ガルシア・ピンヘイロ（ブラジル）	17人
8月18日（日）	マリア・ルイズ（キューバ）	21人
9月29日（日）	ファン・レヴィ（シンガポール）	21人
10月20日（日）	マリオ・アリヤント（インドネシア）	16人
11月16日（日）	キャンディス・ディグロウ（カナダ）	19人
1月19日（日）	ドー・ホアン・ヒエップ（ベトナム）	15人
2月16日（日）	カホ・フォリファトンガ・ロサリネ（トンガ）	15人
合計		190人

■ポルトガル語サロン：ブラジルの魅力について（1回）

講師 ベネジト・リベイロ

内容 ブラジルの魅力について

日 程	6月2日（日）10:00～11:30		
会 場	多文化共生センター	11人	受講者 合計 11人

③外国人支援者のためのポルトガル語講座

（市委託：外国人学習支援センター事業）（427人）

場 所 外国人学習支援センター

協力団体 セメンチ・パラ・オ・フトゥーロ（講師：椎木マリナ）

外国人支援者のために役に立つポルトガル語や、ブラジル社会、教育事情などについて学ぶ講座

	日程	参加者
1期	5月23日～8月1日（11回）13:30～15:00 木曜・入門コース	235人
2期	10月3日～12月12日（11回）13:30～15:00 木曜・初級コース	192人
合計		427人

2）交流イベント（自主事業）参加者数：延べ738人（前年度 886人）

①親子で ENGLISH・キッズ ENGLISH（404人）

未就学児の親子（親子で ENGLISH）・小学校1年生から3年生までの児童（キッズ ENGLISH）がフィリピン人英語講師達と歌やゲームを通して、楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流も行った。

場 所 多文化共生センター

講 師 Filipinos English Teachers in Japan (FETJ)

日 程 日曜日の10:00～11:30

日 時	4月 21日	5月 12日	6月 9日	7月 7日	9月 8日	10月 27日	11月 18日	12月 8日
参加者	52人	58人	47人	41人	38人	64人	45人	59人
合計 404人								

② 留学生とおしゃべり (54人)

平日夜の時間帯に、留学生と気軽に交流できる座談会を3回企画。カナダ人英語教師、ペルー人大学生、インドネシア留学生、ベトナム人留学生などが参加

共 催 はままつ Global House

協 力 浜松青年会議所

日 時 5月17日(金)・6月21日(金) 18:00~20:00 / 12月6日(金) 17:00~20:00

会 場 クリエート浜松クッキングルーム、多文化共生センター

日程	内容	参加者
5月17日(金)	SDGs ゴール3に関連して“ゆるスポーツ”、ゴール7に関連して参加者の出身国の環境対策についてトークタイム	25人
6月21日(金)	浜松の多文化共生の状況のレクチャー、トークタイム	18人
12月6日(金)	忘年会。短歌づくり、おにぎり作り、ハラルお好み焼き	11人

③ 英語で体験！インドの伝統アート (23人)

日 時 7月2日(火)~7月30日(火) 全5回 10:00~12:30

会 場 多文化共生センター

内 容 インド人講師とインドの伝統アートを英語で学び、作品を作った。

参加者 23人

④ ベトナムのお月見祭り (124人)

対 象 ベトナム人やベトナムのお月見祭りに関心のある方

日 時 9月7日(土) 17:00~19:00

会 場 クリエート浜松1階ふれあい広場

内 容 ベトナムのお月見祭りをベトナム人コミュニティと共催で開催。子どものファッションショーやゲーム、手作りのベトナム料理で楽しんだ。

参加者 124人

共 催 浜松ベトナム人コミュニティ

⑤ 第9回ポルトガル語スピーチコンテスト (111人)

日 時 11月24日(日) 13:00~17:00

会 場 多文化共生センター

テーマ スポーツの力：ひとをつなげる・交流・平和

出場者 第1部門：(18歳以上のラテン系の4言語(ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語)を母語としない方) 8人

第2部門：(ラテン語を母語とする10歳~14歳の学生) 18人

第3部門：(ラテン語を母語とする15歳~19歳の学生) 20人

参加者 111人

共 催 在浜松ブラジル総領事館

⑥ ダビッドさんと英語で親子クッキング！ (30人)

日 時 12月1日(日) 13:30~15:30

会 場 クリエート浜松クッキングルーム

内 容 小学1年生~小学6年生の親子を対象に、ジンジャーブレッドでクリスマスツリーを作

りながら英語を学んだ。
参加者 11組 (30人)

⑦サルセッション (19人)

日時 2月1日(土)～2月29日(土) 全5回 10:30～12:30
会場 クリエート浜松5階 スタジオ
内容 キューバ出身のダンスダンスインストラクターによる新しいラテン系ダンスフィットネスを無料体験
参加者 19人
共催 中部協働センター

3. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

①HICE ボランティアバンクの運営 (2,534人) (前年度 2,221人)

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	220人
通訳・翻訳ボランティア	526人
日本語教師ボランティア	494人
ホームステイボランティア	317人
情報提供ボランティア	196人
イベントボランティア	781人

合計： 延べ2,534人

②ホームステイ・コーディネート (20人)

■ コロラドカレッジ「Studying in Asia」にて来日する学生たちのホームステイをコーディネート

依頼者 静岡文化芸術大学
期間 7月5日(金)～7月11日(木) (6泊7日)
参加者 コロラドカレッジ学生12人、ホストファミリー11家庭

■ 「静岡大学留学生ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 静岡大学 国際交流センター
期間 11月15日(金)～11月17日(日) (2泊3日)
参加者 留学生 (インドネシア、中国、インド、ミャンマー、台湾、ベトナム、バングラデシュ) 8人、ホストファミリー16家庭

③ボランティア説明&交流会

情報提供ボランティアの方を対象に、事業の説明と交流会を開催した。

日時 4月6日(土) 10:00～12:00
会場 多文化共生センター
内容 新年度事業紹介、ボランティア交流会
参加者 30人

4. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付(申請32件確定25件)(前年度34件)

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。

(円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会 (にほんごNPO)	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	500,000
2	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会 (にほんごNPO)	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	300,000
3	そらの会	放課後そらの会 (学習支援事業)	250,000
4	特定非営利法人日本語教育ボランティア協会	ジャボラ日本語教室	400,000
5	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育及び学習補助支援	206,000
6	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	まつっこ保護者のための日本語教室	160,000
7	Don・Bosco 学習支援グループ	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	500,000
8	NPO法人AIPEACE	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	500,000
9	特定非営利活動法人ARACE	ARACE 希望放課後教室事業	450,000
10	KSC 子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	440,000
11	WISH	外国籍児童就学前学校体験教室「びよびよクラス」	68,000
12	浜松 NPO ネットワークセンター	多言語による高校進学ガイドブック作成	280,000
13	わたぼうしブランドデザイン 浜松インターナショナルスクール	ポルトガル語の継承語と英語のバイリンガル教育の実施	350,000
14	YACHAY	スペイン語読み書き教室 YACHAY	410,000
15	浜松ペルー協会	スペイン語教室 (プロジェクト レンガ エスパニョウラ)	111,000
16	International Institute of Education and Culture	Diversity Camp in 浜松 2019	339,000
17	GATEWAY Festival 実行委員会	GATEWAY Festival BENTENJIMA HAMANAKO HaNaBi	80,000
18	アソシエーション シビルゲステーション シウダダナ	ペルー共和国の独立198周年記念ペルー日本人移住120周年記念事業	50,000
19	日伯交流協会	国際カラオケ大会	50,000
20	NPO法人フィリピン・ナガイサ	FN ダンスコンテスト2019	149,000
21	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	200,000
22	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流文化の集い	100,000
23	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流春節の集い	120,000

24	細江町国際交流協会	浜松市姉妹都市キャマスマ市交流事業	150,000
25	HAND s (Hamamatsu and Davao Smile project)	日本フィリピン音楽交流プロジェクト	100,000
合計			6,263,000

②天竜地域事業 (434人)

■日本語教室 (市委託：外国人学習支援センター事業)

期 間 4月7日～令和2年3月22日 日曜日の10:00～11:30 全36回

場 所 二俣協働センター他 (天竜区二俣町)

内 容 会話クラス

受講者 登録者数 26人 参加者数 延べ164人 国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、中国

■英会話教室 (自主事業)

場 所 二俣協働センター

講 師 フォーシーズンズ外語学院より派遣

コース	前期	参加者	後期	参加者
初級 (月) 10:00～11:30	4月15日～9月9日 全16回	7人	10月21日～3月9日 全16回	6人
上級 (木) 19:30～21:00	4月18日～9月12日 全16回	8人	10月24日～3月12日 全16回	9人
合計 30人				

■協働センターでのふれあいまつり参加 (自主事業)

日 時 令和2年2月16日(日) 9:00～14:30 場 所 光明ふれあいセンター

日 時 令和2年3月1日(日) 9:00～14:00 場 所 二俣協働センター

内 容 世界を知ってもらうためのクイズとHICE活動紹介

参加者 合計約240人

③セミナールームの活用 (市委託：多文化共生センター事業) (9,769人)

浜松市多文化共生センターのセミナールームをオープンルームとして一般に公開するとともに、講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 9,769人

④多文化共生・国際交流活動支援事業 (市委託：多文化共生センター事業)

■多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・外国にルーツを持つ若者グループ (COLORS) 活動支援 (出前講座)

静岡県立浜松大平台高校 (2回)

- ・外国人留学生支援グループ「はままつGlobal House」活動支援

- ・フィリピン人の英語の先生のグループ (Filipinos English Teachers in Japan) の活動支援
日本人・フィリピン人の3歳から7歳までの子ども連れの親子を対象に、歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流を行う会「親子でEnglish」の開催を支援。

日曜日 10:00～12:00 開催 年9回

- ・国際理解教育活動を進める市民グループ (はままつ国際理解教育ネット) の活動支援

国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」の開催を支援。(4回)

- ・フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援

フェアトレードを推進する浜松市市民団体の定例ミーティング（月1回程度）の開催、イベント（「アースデイ 2019」年4月21日（日）会場：浜北森林公園）の開催支援。

■多文化共生活動者ネットワーク化事業 「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

日時 6月1日(土) 14:00～15:40
 場所 多文化共生センター
 内容 ・多文化共生・国際交流推進事業費補助金の説明
 ・各団体の活動紹介及び情報交換
 参加者 11団体13人

5. 情報提供事業

① 機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数：日本語版 2,000部 ポルトガル語版 2,200部 英語 800部 合計 5,000部
 発行回数：毎月1日発行（1月を除く） 年11回

② ホームページの運営（自主事業）

ホームページアクセス合計数 46,255件

	日本語	ポルトガル語	英語	中国語
HICE	○	○	○	-
多文化共生センター	○	○	○	○
外国人学習支援センター	○	○	○	○

③ Facebook の運用（自主事業）

「いいね」 4,151件

④ HICE info メールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間20回配信。

配信先 3,317人

⑤ CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員（CIR）による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信

配信先 949人

⑥ 情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（4,825人）

情報カウンターにボランティアを配置、外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。

延べ提供数	外国人	日本人	合計
	1,964人	2,861人	4,825人

*コロナウィルス感染症の拡大のため、2月後半から事業中止、来館自粛の影響あり

事業報告の附属明細書

平成31（令和元）年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款8条(2)に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。